

弓削・北野校区の
文化財マップ



久留米市教育委員会

弓削・北野校区の文化財

北野町のシンボルはいわずと知れた北野天満宮きたのてんまんぐう。北野天満宮が建てられたのは1054年。ただし、弓削・北野校区の歴史はさらに遡ることができます。

人が住みはじめたのは、弥生時代、約2000年前であることがわかっています。北大手木遺跡きたおおてきいせきや彼坪遺跡かなつほいせきで多くの土器が出土し、当時の生活の様子がわかります。鳥巢遺跡とりすいせきや十郎丸長谷古遺跡じゅうろうまるはせこいせきでは甕棺墓かめかんぼがみつきり、人々の生活の範囲が広がっていく様子もわかります。今山向才ノ木遺跡いまやまむこうさいのきいせきからは関西地方の土器がみつきり、昔の人とはいえ、遠くの人と交流をもっていました。

この校区に古墳はなく、古墳時代は関係ないようにみえますが、大島遺跡おおしまいせきという集落跡しゅうらくあとがみつかっています。古墳がつくられた時代だから古墳時代と呼ばれていますが、人が生きているからこそその古墳。古墳がないことと、古墳時代が関係ないこととは、全く別の問題です。この校区にもりっぱな集落があります。

11世紀になると、神代橋あたりくましるばしを通るルートに変更されます。神代橋あたりで筑後川を渡り、北野天満宮の下宮から本宮前しもみやを通過するルートほんぐうが設定されます。九州の交通の要所が、宮ノ陣から北野町に移されたのです。ちょうど、北野天満宮が建てられたころです。九州の大動脈が北野天満宮の前を通ることと、北野天満宮周辺が大きく発展していくこととなります。

こうして北野天満宮は北野町のシンボルとして成長し、北野町の原形はここふくおかけんしていぶんかざいのころにつくられたのです。また、シンボルゆえに、多くの福岡県指定文化財があり、さらに多くに宝物が眠っています。

江戸時代になると、様々な理由で筑後川に手が加えられはじめます。通称「なます鯉久保」といわれる地域に、治水のため放水路が掘られます。また、久留米藩くほの財政難を乗り越えるため、農作物の増産を目的として、床島堰とこじませきをつくられます。

今の筑後川は元の形ではなく、人々の生活のため形を変えた姿をみせています。

北野天満宮の指定文化財



ちくごのくにきたのてんじんえんぎ 筑後国北野天神縁起

天神信仰の象徴、それが北野天神縁起です。この神社に伝わる縁起は江戸時代の終わり頃の作品と考えられ、その後何度か修理されたり書き加えられたりしています。縁起によると、北野天満宮が天喜2年(1054年)に建てられたことがわかります。

きたのてんまんぐういしづくりとりい 北野天満宮石造鳥居

このような鳥居は、「肥前鳥居」と呼ばれ、けいちようなんかん慶長年間(1596～1614年)につくられたものが多いので、「慶長鳥居」とも呼ばれます。けいちようとりい。笠木の長さ5.35m、高さ4.01m、地表での両柱間の間隔は2.5mを測り、凝灰岩を削りつくられています。銘文からかきぎ慶長12(1607)年の年号を読み取ることができるので、江戸時代のはじめにつくられたことがわかります。最初は下宮へ下る参道



の途中に建っていましたが、昭和のはじめ頃現在の場所に移されました。

おおぐす

北野天満宮の大樟

ねもとしゆうい えだば しゅこう
根元周囲は22.0m、枝張り^{えだば}は東へ11.0m、樹高^{しゅこう}17.5mを測ります。その大きさにも圧倒されますが、特に根元のふくらみ方がめずらしく、地上2.5mより二段に分かれ、その特異性を誇っています。そのため、福岡県文化財に指定されたのです。正確な樹齡^{じゅれい}は不明ですが、北野天満宮^{てんまぐう}が天喜2(1054)年に京都の北野天満宮の分社として建立されたことから考えれば、あるいは北野天満宮建立当時に植えられ、樹齡も900年近いことが推測されます。

どうせいわにくち

銅製鰐口

てんまぐう きょうろく かんさいいじちくごしゆうかわきたのしょう
北野天満宮の鰐口は、刻んである文字によれば、享禄4(1531)年、「關西路筑之後州河北野庄^{かんさいいじちくごしゆうかわきたのしょう}天満宮」に「檀那草野中務少輔藤原朝臣親永」が奉納し、「灰塚左馬助秀家」が鑄造したものとなっています。

きたのてんまんじんじゃしんこうぎょうじ 北野天満神社神幸行事

毎年10月の第3日曜日(本来は10月19日)に催されるお祭りです。御神幸はお神輿^{ごしんこう}を中心として、風流^{ふりゆう}を先頭^{ちんごう}に、稚児行列^{ちごぎょうれつ}、大名行列^{だいめいぎょうれつ}が続ぎ、行司^{ぎょうじ}、幣指^{へいさし}、流鏝馬^{やぶさめ}など、200人ほどの氏子^{うじこ}をお供^{しもみや}に従え、下宮(御旅所)までの参道1.6キロを往復します。

以前はおくんちの日になると、境内や参道におみやげ品や日用品、農作業用品などのお店が軒を連ね、多くの参拝者や見物人でにぎわいました。この情景は、江戸時代この参道が参勤交代^{さんきんこうたい}に使われた薩摩坊ノ津街道であったこと、また北野町が天満宮の門前町として発展してきたことを物語っています。



遺跡一覧表

遺跡名	遺跡の時代	遺跡の概要
くろいわげ 黒岩家のモチノキ		正確には「クロガネモチ」といい、樹齢は400年くらいが推定されています。 <small>じゅれい</small>
とりすいせき 鳥巢遺跡	弥生	甕棺 <small>かめかん</small> が出土したと伝わる場所です。現在、その甕棺はどこに行ったのか？わかりません。
じゅうろうまるはせこいせき 十郎丸長谷古遺跡	弥生	甕棺墓 <small>かめかんぼ</small> の遺跡です。本格的な調査はしていませんので、今もこの地に眠ったままです。
さつまぼうのつかいどう 薩摩坊ノ津街道	平安～	北野天満宮の参道であり、九州の縦の動脈でもあります。江戸時代には参勤交代にも使われていました。
きたのてんまんぐうしちみや 北野天満宮下宮		おくんちの時に使われる、別名「御旅所」。お祭りの際に天神様をお連れする仮宮 <small>かりみや</small> 。
くましう わたし 神代の渡し		筑後川の渡し場のひとつ。今の神代橋あたり。鎌倉時代のおわり、「神代の浮橋 <small>うきはし</small> 」の話が残っています。
なますく ぼ すいじんじゅ 鯨久保水神社	江戸	中島集落の南側に小さな祠 <small>ほこら</small> があります。江戸時代中頃、筑後川の放水路 <small>ほうすいろ</small> を掘った功労者達を祭った神社です。
おおしまいせき 大島遺跡	古墳	古墳時代おわりの集落跡です。住居跡や土坑がみつかっています。
いまやまどうやしきいせき 今山堂屋敷遺跡		溝や小穴がみつかりましたが、時代を示すものがなかったので、未だに詳しいことがわかっていません。でも、「堂屋敷 <small>どうやしき</small> 」という地名から、なにかの屋敷跡である可能性が考えられます。
いまやまむこうさいのきいせき 今山向才ノ木遺跡	古墳	古墳時代はじめの集落跡です。関西地方の土器がみつかっています。

弓削・北野校区の歴史年表

時代	西暦	弓削・北野校区のできごと	日本のできごと
縄文	10,000		土器や弓矢を使い始める 日本列島がほぼできあがる
	300		稲作が伝わる
弥生	紀元前	●各地に集落がつくられはじめる 北大手木・彼坪遺跡	倭国大乱 卑弥呼が邪馬台国を治める
	紀元後	鳥巢遺跡、十郎丸長谷古遺跡	
古墳	300	今山向オノ木遺跡	古墳が造られはじめる
	500	大島遺跡	筑紫君磐井の乱（527） 仏教伝来（538）
	600		大化の改新（645） 白村江の戦いで大敗北（663） 筑紫大地震（679）
			筑後国府がつくられる
奈良	700		平城京に都をつくる（710）
平安		中厨子田遺跡	国分寺がつくられる
	800	陣屋堂出遺跡	平安京に都を移す（794）
鎌倉		●北野天満宮がつくられる （1054）	鎌倉幕府の成立（1192）
	1200	●神代の渡しに浮橋が掛けられる （1274）	室町幕府の成立（1338）
室町	1400	●大原合戦（1359）	応仁の乱（1467）
	1500		
安土 桃山		茶屋屋敷遺跡	豊臣秀吉の天下統一
	1600		江戸幕府の成立（1603）
江戸		●鯨久保新開削	
	1900	●床島堰がつくられる（1712）	明治維新（1868）

じんやどうで いせき 陣屋堂出遺跡

「陣屋」という地名は、戦国時代、戦のための陣がおかれたからそう呼ばれるようになったといわれています。陣屋堂出遺跡は、陣屋集落の西側にある平安時代～鎌倉時代の集落跡です。建物や井戸、溝がみつかりましたが、戦国時代のものではありませんでした。しかし、「次成」と書かれた土器がみつかりました。9世紀のお皿です。この時代、文字は役人だけが使えたもので、このあたりに役場のような施設があった可能性が新たに考えられています。

ちゃや やしき いせき 茶屋敷遺跡

昔田んぼから甲冑や刀が出土した、といわれる場所です。陣屋堂出遺跡の近くにあるため、戦国時代の遺跡と考えられていましたが、調査の結果、中世～近世の井戸や土坑、溝がみつかりました。陣がおかれた様子はみつかりませんでした。むしろ、そこには、今の陣屋集落の原型がありました。



なかず しでん いせき 中厨子田遺跡

造出集落の中にあります。近世の水田跡や溝がみつかりました。古代に、条里制じょうりせいという大規模な農業基盤整備事業のうぎょうきばんせいびじぎょうが行われました。その条里制に伴う水田と考えられますが、遺物が出土していないため時期を確定することができませんでした。遺物はほとんど出土しませんが、メノウの剥片はくへん3点が出土しました。この周辺で弥生時代の遺跡がみつかったことはなく、新たな遺跡が見つかる可能性が考えられます。



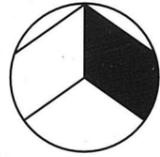
きたおおてぎ いせき かなつぼいせき 北大手木遺跡・彼坪遺跡

彼坪集落の西側にあります。弥生時代中ごろの集落跡や墓地で、多くの家の跡がみつっています。この遺跡があるあたりは、北野校区でも一番低い土地であり、人が住むためにはあまり適していない場所と考えられていました。

しかし、昔の人は、広い田んぼを求めて、水害に負けず、低い場所でも住んでいたことがわかりました。昔の人たちの「強さ」を感じ取ることができる遺跡です。

ゆげ きたの こうく
弓削・北野校区の

文化財マップ



凡 例

- 主な遺跡
- 卍 神社
- 指定文化財
- 道



今山向才ノ木遺跡出土品

彼坪遺跡

北大手木遺跡

中厨子田遺跡

大島遺跡

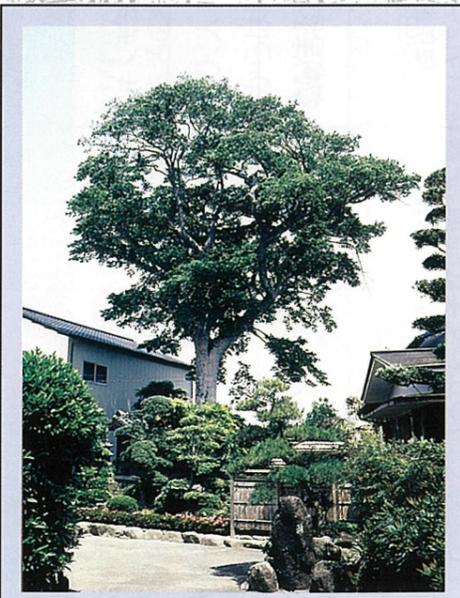
陣屋堂出遺跡

今山堂屋敷遺跡

今山向才ノ木遺跡



神代の渡し



黒岩家のモチノキ



鯉久保水神社

久留米市埋蔵文化財センターのご案内



体験学習「まが玉づくり」のようす

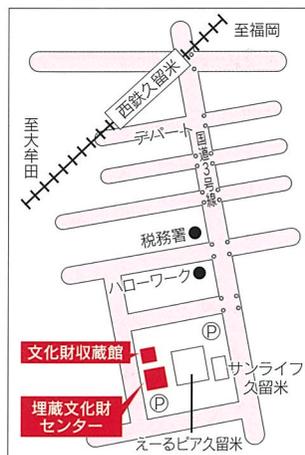
久留米市埋蔵文化財センターでは、市内の遺跡から出土した遺物(土器・石器・金属器)や図面・写真などの記録を収蔵・整理・研究するために、平成6年4月にオープンしました。センターでは、資料の貸し出しや文化財に関する相談に応じています。また、「ふるさとの歴史とふれあっ展」、春には「文化財フェスタ」、秋には「考古資料展」などのいろいろな企画展を開催し、あわせて体験学習や現地説明会など盛りだくさんの企画を行なっています。

歴史に興味がある方もない方もお気軽にお越しください。お待ちしております。

開館時間：午前9時～午後5時

休館日：土・日・祝祭日・年末年始

入館料：無料



《文化財に対するお問い合わせ》

久留米市市民文化部 文化財保護課

久留米市城南町 15-3 (市役所 12 階)

☎0942-30-9225 FAX 0942-30-9714

E-mail : bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp

久留米市埋蔵文化財センター

久留米市諏訪野町 1830-6 (えーるピア敷地内)

☎0942-34-4995 FAX 0942-34-5045

弓削・北野校区の文化財マップ

平成18年3月31日

発行：久留米市教育委員会

編集：文化観光部文化財保護課

〈表紙〉北野天満宮楼門